

## NPO パートナーシップ協力プログラム 事業終了報告書

団体名：NPO ガラパゴス

代表者名：小柳由加里

### 1. 事業名

令和3年豪雨水害復旧事業—子どもたちへ途切れずサービスを提供するために

### 2. 事業カテゴリ

3. 事業期間      2021年9月10日 ～ 2021年11月30日      (82日間)

### 4. 契約金額

882,896円

### 5. 担当者名

小柳由加里／木須亮太

### 6. 事業目的

被災して活動を休止していた『児童支援事業所ガラパゴス』が仮拠点で事業再開することにより、子どもたちに途切れることないサービスを提供し、子どもたちの居場所を確保することで一日も早い地域の復興に貢献する。

### 7. 事業の成果

8月の水害後、1m以上浸水したために利用が出来なくなった事業所に代わり仮拠点（水害4日目から1週間：旧北方町役場跡3F、その後～今現在：武雄市立青陵中学校内の空き教室）を準備し、それに伴う備品類の整備、また子どもたちの活動場所の十分な確保やスタッフの事務作業をスムーズ行うため、仮拠点からガラパゴス基山や課外活動場所への移動をして活動を行った。今回の水害で、ほぼすべての備品、書籍、書類を廃棄することになり、元の事務所から仮拠点に運び込めた備品は何もなかった。そのため、緊急的に必要と思われる最低限の備品の準備を行った。被災直後は全てスマートフォンで行っていた事務作業も、本事業開始前にも Civic Force から緊急的にパソコンや無線ルーターを支援いただいたことで書類作成等もできるようになった。

当初は支援場所の変化によって、不安を持ったり、興奮が大きく見られ、座っての活動が大変難しい子どもも多くいたが、玩具類の整備により、パズル、カード遊び、ブロックなどの活動ができるようになった。以前と変わらない笑顔を見ることができ、その結果、徐々に座って活動ができるようになるなど、行動に変化が見え、それに伴い、スタッフも落ち着いた支援ができた。本来、環境変化には強い反応が出る子どもも

多い中、スタッフが一人一人としっかりと向き合える時間の確保ができた事が安定につながった。環境の変化に敏感な利用者は、事業所が利用できなくなったことで来所出来なくなるかもしれないとの心配を持っていたが、幸いにもほとんどの利用者が、以前と変わらず来所できた。スタッフも利用者の環境変化への対応能力に驚く場面もあった。

また被災から4日後には、仮拠点での活動を再開、その後も継続できたことにより、子どもたちの保護者からは大変助かったとの声を頂いた。2年前の被災では約3カ月の休業を余儀なくされたため、その間、子どももその家族は家庭でも通常の生活を送ることができず、負担が大きかった。今回は早期の復旧により、被災前後で大きな変化がなく、家族も日常生活を送ることができている。保護者から手伝いを申し出ていただくこともあり、事業所の掃除などへの参加、継続に向けての支援も頂くことができた。ガラパゴスでは実際に子どもたちを預かっている時間だけではなく、保護者からの相談に随時、電話やLINEなどでも対応を行っている。定期的な相談や面会よりも、日常的・突発的な悩みに細やかに対応することが保護者とその家族には必要であり、今回はその対応も継続することができた。子どもたちが通う学校から相談を受けることも多く、学校や家庭、地域での調整役を担い、子どもとその家族の全体的な生活サポートを行うことができた。

ただし、仮拠点がスペースとしては狭く、子どもたちが思う存分、体を動かすなどの活動ができない、スタッフの事務作業ができない、また学校行事のために教室が利用できないことがあるなどの理由から、武雄事業所の利用者も土曜日や臨時的に基山事業所を活用した。基山事業所には、旧武雄事務所と同じ遊具や玩具が揃っていたり、室内の雰囲気もよく似た環境であったため、利用者も安定した活動ができた。

## 8. 事業種別（コンポーネント）ごとの成果

### (1) コンポーネント①

仮拠点での事業継続に向け以下の備品を購入した。しかし、仮拠点に設置できるスペースがなく、業者への発注は行ったが、納品が難しく一部は支払いのみ行い、業者にて保管して頂いている。

#### ・テレビ、DVD プレーヤー（一時保管）：

DVD鑑賞のイベント時に利用。ただ見せるだけではなく、映画館に似た環境を作り、見る動画の選択や、飲み物、軽食などを準備するなど、段取りを行うトレーニングに繋がったり、みんなで見ているときは、静かに過ごす事を覚え、映画館の疑似体験を行うことで社会性を養うことができた。

#### ・遊具など（支援用の玩具としてカード、ボードゲーム、知育玩具類）：

年齢やその個々の能力に合わせた玩具を揃えることで、例えばパズルでは、ピースの少ないもので完成の達成感を感じるように支援する。指先のトレーニング、言葉のトレーニング、チーム制のトレーニングなど、個々に合わせた支援ができるようにたくさんの種類の玩具を揃えた。

#### ・プリンター（一時保管）：事務作業時の印刷用、支援資料のコピーなど

#### ・シュレッダー：個人情報書類の適切な廃棄用

#### ・パソコン周辺機器（一時保管）：スタッフの事務作業

仮拠点以外では基山事業所のほか、課外活動として唐津市の波戸岬を訪れた。被災とコロナ禍により、被災後はほぼ遠出ができない状況にあったため、子どもたちも思いきり体を動かし、遊ぶことのできる活動となった。また仮拠点などから近い公園は、地域の子どもたちでいっぱいになり、密を避け、落ち着いて活動をする事ができないこともあったため、スタッフが事前に利用状況を確認したうえで、普段も車で少し離れた公園まで利用者の子どもたちを連れていくこともあった。仮拠点の狭さが課題であったため、ほかの場所でも活動ができたことは、子どもたちのトレーニングや体験の多様化、行動の安定化に繋がった。

## 9. 事業全体を通じて得た教訓や課題等

障がいを持った子どもたちへの支援の根本は、できる限り安定した支援を続けることである。二度水害により被災した武雄市北方町の水害対策は、いち事業者の対策では、到底クリアできる問題ではなく、根本的な問題の解決は難しい。そのため、自然災害ができる限り少ない場所への事業所の移動は、近々の大きな課題だと感じた。また個人や各団体からの支援もいただいたが、二度目の被災にも関わらず、以前よりも使用できる助成金や補助金が少なく、クラウドファンディングの集まりもあまりよくはなかった。資金調達については今後も課題であり、方法を検討中である。

ほかには今回、仮拠点への環境変化に対して、子どもたちが不安定になるのではないかと強く懸念したが、以前の被災に比べ、スタッフの能力も上がっていた事と、子どもたちの変化への対応能力の相互の影響により、大きな波乱もなく支援が継続できたことは、大変よかった。

## 10. 協力体制の構築

2019年の1回目の水害時より、シビックフォース様、地元のボランティア団体である、おもやいボランティアセンターをはじめ、鹿島市のDIWA様など、継続した支援を行っていただいている。

## 11. Civic Force との協働について

ガラパゴスの事情をよく理解していただき、子どもたちへの配慮をしていただいた。また仮拠点の状況への対応も頂き、納品が難しい備品類に関して、業者預かりを承諾いただき、大変助かった。